

2020年6月12日

各位

会社名 株式会社フレンドリー
代表者名 代表取締役社長 小野 哲矢
(コード:8209 東証第2部)
問合せ先 取締役営業本部長 八木 徹
(TEL. 072-874-2747)

通期業績予想値と実績値との差異及び特別損失計上に関するお知らせ

2019年5月10日に公表した2020年3月期の通期業績予想値と本日公表の実績値との差異及び特別損失の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

2020年3月期通期業績予想数値と実績値の差異

(2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	当期純利益 百万円	1株当たり 当期純利益 円 銭
前回発表予想値(A)	7,217	△333	△324	△350	△125.51
実績値(B)	6,749	△541	△522	△2,603	△915.67
増減額(B-A)	△468	△208	△198	△2,253	—
増減率(%)	△6.4	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	6,875	△209	△203	△454	△176.39

1. 通期業績予想値と実績値との差異の理由

2020年3月期の業績において、上半期におきましては、収益性の高い「釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺」への10店舗の業態転換も寄与し、売上高計画差プラス7百万円(計画3,454百万円、計画比100.2%)、営業利益計画差プラス16百万円(計画△240百万円)、経常利益計画差プラス14百万円(計画△236百万円)、当期純利益計画差プラス26百万円(計画△249百万円)と、計画を若干上回る状況で推移いたしました。

下半期におきましても、上半期の10店舗に加え継続して「釜揚げ讃岐うどん香の川製麺」へ3店舗を業態転換するとともに、1店舗の新規出店を行いました。

- ① 10月の消費増税以降、客単価の高い「地鶏と旬魚・旬菜つくしんぼう」と「産直鮮魚と寿司・炉端源べい」の2業態を中心に、売上の減少が見られたこと
- ② 「釜揚げ讃岐うどん香の川製麺」のうち当期に業態転換を進めた店舗において、店舗オペレーションの不慣れと教育の不足から、売上原価及び人件費のコントロール不足が発生したこと
- ③ 本年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、都市型居酒屋業態の「地鶏と旬魚 旬菜つくしんぼう」、「新 酒場なじみ野」や、郊外型居酒屋業態の「産直鮮魚と寿司 炉端源べい」と「海鮮うまいもんや マルヤス水軍」の4業態を中心とした売上高の急減により、2月、3月の累計売上高が計画比73.0%に大きく落ち込む結果となったこと

以上のことなどから、通期では売上高計画差△468百万円、営業利益計画差△208百万円、経常利益計画差△198百万円と計画を下回りました。

さらに、2020年6月4日に公表いたしました「店舗の閉店等に関するお知らせ」のとおり、総店舗数70店舗のうち、41店舗の閉店を決定したこと等により下記に記載したとおり減損損失及び店舗閉鎖損失並びに事業整理損失が新たに発生したことにより、当期純利益は前回発表より2,253百万円少ない2,603百万円の損失となりました。

2. 特別損失の計上について

2020年3月期通期決算において、当社で保有する事業用資産のうち、上記で記載しました閉店予定の店舗及び共用資産、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなっている店舗・物件について1,575百万円の減損損失を計上いたしました。さらに閉店にともなう店舗閉鎖損失引当金繰入額320百万円、事業整理損失引当金繰入額209百万円を計上いたしました。

以 上